2017年11月13日 ご参考資料

楽読（ラクヨミ） Vol. 1,292

Raku Yomi

世界経済の回復を背景に、上昇基調が続く世界株式

楽読（ラクヨミ）

nikko am fund academy

世界株式は2016年以降、上昇基調が続いています。

その背景には、堅調な世界経済の成長があげられます。IMF（国際通貨基金）によると、2017年の世界経済の成長率は3.6%と、前年の3.2%から成長加速が予想されています。また、データを取得できる192ヵ国のうち、約93%がプラス成長になると予想されており、これは2008年以降なかった高水準となります。

世界経済の先行きについて、経済成長率と関係が深いとされるグローバル総合PMI（購買担当者指数）をみると、足元は高水準で推移しており、企業景況感の改善を背景に、世界経済の成長継続が示唆されています。こうしたことに加え、利上げ慎重派とされるパウエル氏がFRB（米連邦準備制度理事会）次期議長に指名されたことや、総選挙での圧勝で安倍政権が継続していること、スペインのカタルーニャ問題がユーロ圏で限定的な影響にとどまっていること、北朝鮮問題がいったん落ち着いていることなどにより、投資家マインドが押し上げられており、世界全体に対する投資家の信頼感はリーマン・ショック後の最高を更新しています。

また近年、主要先進国において、景気が回復しても、以前に比べてあまり物価が上昇しない傾向があり、その結果、低金利環境が続いています。こうした環境は、企業業績の回復が賃金上昇につながることで解消されるとみられるものの、賃金上昇が鈍いことなどから、物価が大きく上昇しない状況はしばらく続くとみられ、低金利が景気を後押しすると考えられます。

今後のリスクとしては、北朝鮮などの地政学リスクの高まりがあげられます。トランプ大統領は、北朝鮮への軍事力の行使を否定しておらず、仮に軍事衝突につながれば、市場は予想外の混乱に陥る可能性があります。しかし、問題解決に向けて、米国が中国やロシアへ圧力強化を求めるなど、外交による取り組みが続くとみられます。そうしたなか、世界経済の回復を背景に、企業業績の回復も予想されていることなどから、世界株式は堅調な推移が続くと期待されます。

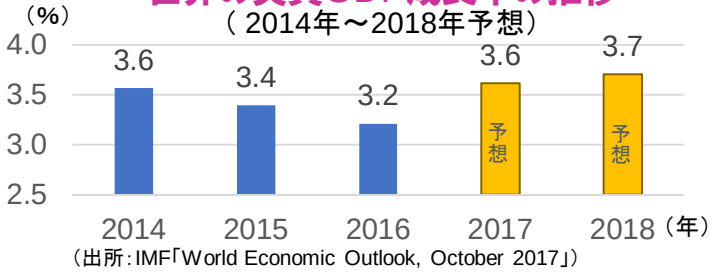
世界株式（米ドルベース）と予想EPSの推移

（2015年12月末～2018年12月末＊）

（信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成）

世界の実質GDP成長率の推移

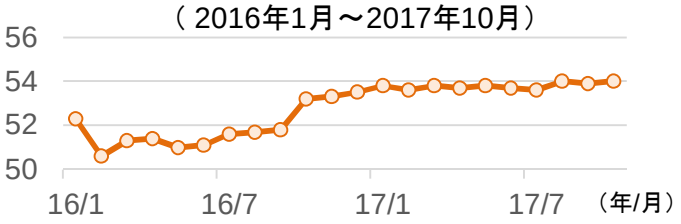
（2014年～2018年予想）



（出所：IMF「World Economic Outlook, October 2017」）

グローバル総合PMIの推移

（2016年1月～2017年10月）



（出所：IHS Markit）

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。